

第37回 ICT活用教育の推進に関する 事業改善検討委員会

- 【資料1】 前回のご意見について
- 【資料2】 1人1台端末の活用について
- 【資料3】 ICTを活用した県立学校の取組目標について
- 【資料4】 生成AI利活用ガイドラインの改訂について
- 【資料5】 情報セキュリティ対策の取組状況について
- 【資料6】 SAGAハイスクールDI人材育成事業について
- 【資料7】 次期教育情報システムの構築に向けて

I 端末活用

【前回のご意見】

・1人1台端末の活用状況調査（県独自調査）では、端末活用について子どもがどう感じているか、子どもの声を聞くことが大事ではないか。

【分析結果と今後の対応】

- ・教職員の調査結果だけでなく、子どもの感じ方についても聞き取りが必要と判断した。
- ・全市町教育委員会を訪問して聞き取りを行い、学校側の声を集めている。
- ・全国学力・学習状況調査で、子どもがどう感じているかを分析し、今後の対応を考える。

2 校務DX

【前回のご意見】

- ・校務DXチェックリストで、極端に数値が低い学校は聞き取りが必要ではないか。

【分析結果と今後の対応】

- ・実際の数値よりも活用できていることが予想されたため、学校への聞き取りが必要だと判断した。
- ・年度初めの学校訪問において、学校の現状を聞き取るとともに、当グループが考えている基準について説明する。
- ・各県立学校の取組目標に校務DXの項目を盛り込み、年間を通じて継続的に校務DXを推進できる体制を構築する。
- ・今後、各調査においては、各問いに対する回答基準を明確にして、依頼していく。

3 端末持ち帰り

【前回のご意見】

- ・持ち帰りの事例を共有してほしい。

【分析結果と今後の対応】

- ・持ち帰りの事例を十分に広めることができていなかった。

- ・今後、持ち帰りの事例を共有し、県全体に広める。

<事例共有の方法>

- ◆佐賀県ICT活用教育サイト「SAGA E コネクト」の「先生たちのひろば」への掲載
- ◆各種研修会での情報提供
- ◆教育DX通信「DX-Eさが」への掲載

【前回のご意見】

・県としての端末活用の目標値がどれくらいなのか、設定する必要がある。

【分析結果と今後の対応】

・県としての端末活用の目標値は、国の目標値と同じ数値を設定しているが、その周知が不十分と分析した。

- ・1人1台端末の活用状況調査（県独自調査）結果の中に、目標値を入れる。
- ・各種研修会等で、目標値及び活用の具体例の周知を図る。

以下の場面で児童生徒が端末を週3回以上活用する学校
【目標値（令和8年度）】

- ①調べる場面 100%
- ②発表・表現する場面 80%
- ③教職員とやりとりする場面 80%
- ④児童生徒同士でやりとりする場面 80%
- ⑤理解度等に合わせて課題に取り組む場面 80%



5 研修

【前回のご意見】

- ・授業での活用などを進める際に、研修が増えていくと先生方の働き方改革につながらない。研修の必要性和先生方の働き方改革の両方の視点で、研修をどう進めるか検討が必要ではないか。
- ・個人のリスキングの研修が必要ではないか。

【分析結果と今後の対応】

- ・オンデマンドでできるものはオンデマンドに切り替えていくなど、更なる工夫が必要である。
- ・国が放課後の短時間で受講できるオンライン講座を今年度から始めている（周知済）。
県主催の研修も、今後、このような方法で行えないか検討している。
- ・今年度、リスキングのオンライン研修（デジタル採点支援システム、Winbird、Teams）を増やしている。

令和7年度 GIGA StuDX推進チーム開催
第1回 **プチ学習会** MEXT オンライン

別添2

「GIGA StuDX推進チーム」では、学校教職員を対象にプチ学習会を実施します。1回1テーマ（約15分）からの参加も可能です。みなさまのご参加をお待ちしています。※教育委員会の方もご参加いただけます。

1回1テーマ 約15分!

1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
6月24日(火)	7月7日(月)	6月26日(木)	7月11日(金)	7月2日(水)	7月16日(水)
15:50-16:05 (15分)	15:50-16:05 (15分)	15:50-16:05 (15分)	15:50-16:05 (15分)	15:50-16:30 (40分)	15:50-16:30 (40分)
校務DX	校務DX	タイピング指導	タイピング指導	体験しよう! “校務DX”	体験しよう! “校務DX”
・校務DXチェックリスト解説	・校務DXチェックリスト解説	・タイピングの指導実践事例を紹介	・タイピングの指導実践事例を紹介	・欠席連絡をテーマに、アンケート機能を活用体験	・欠席連絡をテーマに、アンケート機能を活用体験
16:20-16:35 (15分)	16:20-16:35 (15分)	16:20-16:35 (15分)	16:20-16:35 (15分)	7/2(水)	7/16(水)
生成AI	生成AI	チャット編	チャット編	Microsoft Forms	Google フォーム
・「生成AI」の利活用に関するガイドライン」解説	・「生成AI」の利活用に関するガイドライン」解説	・学習の場面におけるチャットの活用事例を紹介	・学習の場面におけるチャットの活用事例を紹介		

時間割

プチ学習会 参加申込みはコチラ

＜ご協力ください＞
学校長・教育委員会名でお申し込みください。
※準備の参考にしますので、必ず事前申込みにご協力をお願いします。

学習会 (Zoom)
URL: <https://zoom.us/j/9211802258>
ミーティングID: 921 1802 2258
パスコード: 887001
※当日は15分前から入室いただけます。

6 トラブルシューティング

【前回のご意見】

- ・トラブルシューティングの資料があるとよいのではないか（例えば、生成AIを使って、トラブルを自分で解決するなど）。
- 一方、たくさん資料を作っても、先生方は読む時間がないことが考えられる。

【分析結果と今後の対応】

- ・トラブルがあった場合、教育DXスタートアップ事業に係るポータルサイトやヘルプデスクにアクセスできるように対応しているが、今後更なる工夫が必要である。
- ・生成AIを活用して、教師個人でトラブルを解決できるようにするなどの研修を検討する。
- ・生成AIガイドラインVol.2及びプロンプト集を作成し、利活用推進を図る。
- ・生成AI活用研修を8月28日に開催（予定）。

1人1台端末の活用について

【資料2】

①学習観の転換 → 継続
「教師が授業で端末を活用する」
→ 「子どもが学習で活用する」

②日常的な端末使いの推進
・端末をいつでも使えるように手の届く場所に
・授業外での活用場面の習慣化（登校直後、係活動、休み時間、持ち帰り）

③ICT活用の新たなフェーズへの対応
・生成AI
・校務DXの推進

教育DX推進グループ

- ・重点校支援
- ・各種研修
- ・実践事例の紹介（SAGA Eコネクト）
- ・管理職研修
- ・ルール等の共有
- ・推進リーダー研修

- ・先進事例等の情報共有
- ・文科省からの調査等の周知

市町教育委員会

- ・エリアリーダーの選出・派遣
- ・授業実践（ST・授業動画撮影等）への協力
- ・事例提供
- ・環境整備
- ・各種調査への協力
- ・研究指定校

▷（中・高） クラウドを活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組（例）



	取組内容	成果	課題
個別最適な学び	<ul style="list-style-type: none"> Teamsの「課題」機能を利用した教科書の音読課題の取組、レポートの提出、実習テキストのアップロード 長期休業中のデジタル教材の配信と課題回収 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に必要な問題を決めて取り組むことが可能となった 利用機会や認知度の拡大により、自主学習の選択肢の一つとなった 	<ul style="list-style-type: none"> Teamsの音読課題は、全員が同一課題に取り組むため、到達度に応じた問題に取り組ませていない 活用の度合いについては個人差がある
協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> Teamsを活用した生徒の記述解答比較 美術の授業で新しい校章のデザイン案を共同で制作 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの意見や考えから共通点や相違点を見出し、個々の思考力を高めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な活動を工夫するための負担が大きい 全員がオンラインに接続すると、アップロードできない生徒がいたり、多くの時間を要したりしてしまう

A：達成できた（目標値を100%達成）
 B：概ね達成できた（80%以上）
 C：やや不十分である（60%以上）
 D：不十分である（60%未満）

達成度	校数	割合
A	6	12.8%
B	33	70.2%
C	7	14.9%
D	1	2.1%
計	47	100%

83.0%

▷（特） 1人1台端末を活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組（例）



	取組内容	成果	課題
自らの特性に合わせた活用	<ul style="list-style-type: none"> 音声認識アプリを活用し、自身の気持ちや考えを表現 アプリを利用して手順書を作成し、視覚支援として活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援やコミュニケーション支援など、児童生徒の実態に応じた活用ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力差が大きいと、それぞれの生徒に合わせて、活用の仕方考える必要がある
情報収集・資料作成・発表	<ul style="list-style-type: none"> 端末で動画を見ながらダンス グーグルマップストリートビューで学校周辺を閲覧し、事業所の存在を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が興味関心を持って、意欲的に学習ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に調べることが決められた内容については調べることができるが、それ以外は難しい

達成度	校数	割合
A	4	40.0%
B	6	60.0%
C	0	0.0%
D	0	0.0%
計	10	100%

100%

R6年度 ICTを活用した教育における取組目標の内容および達成度について（取組目標Ⅱ）

A：達成できた（目標値を100%達成）
 B：概ね達成できた（80%以上）
 C：やや不十分である（60%以上）
 D：不十分である（60%未満）

▷（中・高・特） ICTを活用した業務改善や効率化の取組（例）

	取組内容	成果	課題
集計のデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、職員向けの各種アンケートのweb化 遅刻、欠席連絡のデジタル化 デジタル採点支援システムの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 集計、集約の簡素化は大きい 十分に定着し、学校全体の出欠状況を確認できる 採点業務の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルで行うことで、回答しない生徒や保護者も一定数存在するので、紙も必要 システムの慣れに多少時間が必要
ペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料や内規集をクラウドやポータルで配信、共有 OneNoteに職員会議資料を入力し、ペーパーレスで会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化への意識づけとデータのクラウド配信が定着 資料等をすぐに閲覧でき保管に困らないため扱いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> メモの取りにくさ 目的に応じて、デジタル、紙媒体の使い分けが必要
オンデマンド活用	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験の解説動画を配信 校内ICT説明会や研修会をオンデマンド化 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学びをサポート 集合ではなく、空き時間を活用し効率的に研修を行えた 	<ul style="list-style-type: none"> オンデマンド視聴は、視聴確認が難しい。

達成度	校数	割合
A	16	28.6%
B	39	69.6%
C	3	5.4%
D	0	0.0%
計	58	100%

98.2%

R6年度 ICTを活用した教育における取組目標Ⅰ・Ⅱの達成度

教育施策実施計画

90.4%

達成度	校数	割合
A	26	22.6%
B	78	67.8%
C	10	8.7%
D	1	0.9%
計	115	100%

指標名	基準値	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
県立学校のICT活用教育に関する取組目標の達成率	81.7%	84%	86%	88%	90%

R7年度 ICTを活用した教育における取組目標 概要

～ 県立中学・高校・特別支援学校 ～



▶取組目標Ⅰ (県立中学・高校)

－クラウドを活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組－

個別最適な学び

- 教員自作の教材、既存のデジタルコンテンツの活用
- クラウドを活用した教材や資料の提示と共有
- SAGA e スタディの活用
- 欠席者へのオンライン授業及び課題配信

協働的な学び

- 協議やプレゼン資料作成等における共同編集機能の活用
- 生徒の意見や考えをクラウドで共有



▶取組目標Ⅰ (県立特別支援学校)

－1人1台端末を活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組－

自らの特性に合わせた活用

- 児童生徒の実態に即した活用により、自発的な身体の動きや意志の表出及び教科学習等に繋げる
- 1人1台端末を活用することで、児童生徒一人一人の実態に即した学習環境を整え、学習上の困難さを軽減する

情報収集・資料作成・発表

- 1人1台端末を活用し、調べ学習において、情報を整理しまとめる力や分析する力を育成する
- 1人1台端末を用いて得られた情報を整理したうえで、PowerPointなどを用いて表現する力を養う



▶取組目標Ⅱ (県立中学・高校・特別支援学校)

－ICTを活用した業務改善や効率化の取組－

採点のデジタル化

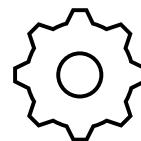
- デジタル採点支援システムを活用した採点業務の負担軽減
- デジタル採点支援システムを活用した試験結果分析や生徒へのフィードバックの効率化

ペーパーレス化

- 各種会議・研修資料のPDF化、内規集のPDF化
- 時間割、日報等のデジタル配信、OneDrive/Teamsの活用

各種デジタルツールの活用

- オンデマンドによる研修実施
- 校務における生成AIの活用
- 欠席、遅刻連絡のデジタル化
- アンケート実施集計のデジタル化



▶活用ツール

- Teams
- OneDrive
- Stream
- Forms
- Winbird
- ChatGPT
- Classi
- スタディサプリ
- すらら
- SAGA e スタディ
- e-メッセージ
- 百問繚乱(デジタル採点支援システム)



生成AI利活用ガイドラインの改訂について

- 県では令和5年7月に生成AI利用ガイドラインvol.1を策定
- 策定から2年が経過しており、状況に合わせた改訂が必要

旧ガイドライン 目次

1. 本ガイドライン策定の趣旨
2. 生成AIの教育活用における基本姿勢
3. 生成AIについて
 - (1) 対話型生成AIの概要
 - (2) 生成AIの利便性
 - (3) 生成AIの留意点
4. 生成AIの教育利用について
 - (1) 校務での利用
 - (2) 学習活動での利用

拡 充

改訂のポイント

- ★生成AIの利活用推進に向けて実践的な情報を充実
- ① 生成AIの利活用に向けたステップを示す
 - ② 教職員及び児童生徒の利活用場面例を示す
 - ③ 効果的なプロンプト(指示文)の考え方を示す
 - ④ 学校現場で使えるプロンプト集を作成する

改訂ガイドライン 目次

【概要編】

1. 本ガイドライン策定の趣旨
2. 生成AIの教育利活用における基本姿勢
3. 生成AIについて
 - (1) 生成AIの概要
 - (2) 代表的な生成AI
 - (3) 基本的な考え方
 - (4) 利活用の際の留意点

追 加

【利活用編】 New!

1. 生成AIの教育利活用について
 - (1) 利活用推進に向けたステップ
 - (2) 教職員が校務で利活用する場面例
 - (3) 生徒が学習活動で利活用する場面例
2. プロンプト(指示文)について
 - (1) プロンプト作成の6つのポイント
 - (2) プロンプト例(校務・学習準備)
3. 利活用する際のチェック項目

【別冊】 プロンプト集 New!

R7

【教職員の活用推進】生成AIを活用した、教材作成や業務の効率化（校務DX化）

- 4月・・・ビジョン、計画作成、県行政デジタル推進課打合せ
- 5月・・・生成AIガイドラインvol.2内容検討
- 6月・・・生成AIガイドラインvol.2発出、コパイロットのプレビュー版を使用するようにする。
- 7月・・・第1回改善検討委員会
 - ・生成AIガイドラインvol.2とロードマップ提案
- 8月・・・マイクロソフトによる教職員向け研修予定
- 9月・・・生成AIガイドラインvol.2-①（どうしても出す必要がある場合）
 - +活用事例集+テンプレート（プロンプト）集
- 10月・・・県立推進リーダー研修会
 - ・生成AI活用について、情報収集をお願いします。
 - ・各校、事例1つ以上を2月末に提出してもらう。（任意）
- 11月・・・第2回改善検討委員会
- 2月・・・教科リーダー及び県立推進リーダーによる生成AI活用事例提出

R8

【児童生徒の活用推進】生成AIを活用した新たな授業展開

- 4月・・・校務での活用事例集発出
 - 県立推進リーダーによる生成AI活用事例含む
- ・教師の授業での活用事例収集、発出
- ・児童生徒の生成AI活用事例収集、発出

情報セキュリティ対策の取組状況について

「佐賀県学校教育ネットワークセキュリティ対策実施計画」に基づき、令和6年度に監査、研修等、全ての項目について取組を実施した。令和7年度もさらなるセキュリティ文化の醸成に向け継続的に取り組むとともに、その取組状況等について情報を開示し広く共有していく。

1 佐賀県立学校情報セキュリティ内部監査の実施

令和6年度に教育委員会事務局のセキュリティ担当が全県立学校を訪問し、情報セキュリティ内部監査を実施した。
なお指摘・指導事項については、全て改善済である。

【指摘・指導事項】

[参考：令和5年度]

○重要情報資産の管理に関すること	13項目（21校）	8項目（28校）
○端末の使用に関すること	なし	なし
○人的セキュリティに関すること	なし	なし
○物理的セキュリティに関すること	なし	1項目（1校）

2 情報セキュリティ研修の実施

令和6年度も、全県立学校教職員に対する研修をはじめ、公立学校教員及び教育行政職員に係る各種研修会に情報セキュリティのカリキュラムを加えて実施するとともに、教育情報化推進リーダーを対象に情報セキュリティ研修を実施した。

また生徒向けには、各県立学校において、情報モラル教育に関する年間指導計画を作成し、情報セキュリティを含めた情報モラル研修等を実施した。

佐賀県学校教育ネットワークセキュリティ対策実施計画の取組状況(令和6年度)

実施計画	取組状況
1 無線LAN運用時間帯の見直し	平成28年度より継続して取組中
2 業務ソフト導入時のセキュリティチェックの強化	平成29年度契約時にセキュリティ項目等を含めた仕様書に変更し、継続して取組中
3 アカウント(ID、パスワードの管理)の強化	平成28年度よりシステム側でパスワード条件を設定し、継続して取組中
4 重要アカウントを含む文書類のオフライン管理の徹底	平成28年度より重要アカウントを配布しないこととし、継続して取組中
5 セキュリティ/システム監査の実施	
・ 教育情報システム外部監査	平成29年度より引き続き外部監査人に委託して実施 ※平成29年度以降は毎年度、教育委員会事務局内の1システムを選定し実施(令和6年度対象:「服務管理システム」(教育DX推進グループ))
・ 全県立学校への内部監査	平成29年度より継続して取組中
6 関係者(教育委、学校、業者等)による情報共有体制の確立	平成28年度に関係業者によるメーリングリスト及び会議システムを構築し、継続して取組中 教育情報システムを利用し、学校へ外部で発生した事も含めてセキュリティインシデント等の情報共有を実施
7 セキュリティ文化の確立	
・ 運用ルール集策定及び周知	平成28年度に運用ルール集を策定し、全県立学校職員に対し研修(eラーニング)を実施 ※佐賀県情報セキュリティ対策基準(県行政デジタル推進課)の改定内容を踏まえ改定
・ 県教委職員、教職員向けに研修、eラーニング研修を実施	平成28年度より教職員向けに研修を開始 平成29年度より全県立学校教職員に対するeラーニング研修を実施
・ 教育情報システムを利用し、ヒヤリ・ハット情報を共有	平成28年度より教育情報システムを利用し「学習系フォルダ内の整理に関する注意喚起」「電子メール利用における注意喚起」等の情報を発信
・ 生徒向けに、情報セキュリティを含めた情報モラル教育の充実	平成29年度より「情報セキュリティ・モラル研修(各学校での取組)」を全県立学校において実施
8 県教委による情報の把握・統制	平成29年度より、情報システム・セキュリティ担当(令和5年度より、教育DX推進グループ・セキュリティ担当に名称変更)を設置し、システム運用等を総括
9 デジタルコンテンツのインストール方法の改善	平成29年度よりセキュリティ担当の許可のもと運用事業者のみが作業可能とし、継続して取組中
10 生徒端末規約の策定	平成29年度より継続して取組中

令和6年度 佐賀県立学校情報セキュリティ内部監査の 主な指摘・指導事項

※令和6年度の内部監査の指摘・指導事項等についてはすべて改善済

1 重要情報資産の管理に関すること(13項目/21校)

- 外部記憶媒体に関する所定の様式への記載漏れ等【16件】
- 長期間の貸し出し等の外部記憶媒体の不適切な管理【6件】
- 学習系フォルダ内への個人情報の保存【10件】
- 紙媒体の重要情報資産の目に付きやすいところへの保存【2件】

2 端末の使用に関すること

該当なし

3 人的セキュリティに関すること

該当なし

4 物理的セキュリティに関すること

該当なし

令和6年度 情報セキュリティ研修一覧

研修名	年月	研修受講者
教育行政職員新任基礎研修	令和6年5月	在職2年目の教育行政職員(教育委員会事務局、県立学校、市町立学校)
初任者研修ICT活用教育「教育DX」推進研修	令和6年6月～8月	令和6年度に新規採用された小・中・高等学校・特別支援学校等の教諭・教育行政職員等 (オンデマンド)
佐賀県3年経験者研修全校種合同研修会	令和6年5月	在職期間が3年を経過している教諭等
ICT活用教育の推進に係る管理職研修(義務制)	令和6年6月	市町立学校の管理職 各学校より1名
ICT活用教育の推進に係る管理職研修(県立)	令和6年7月～9月	県立学校の管理職 各学校より1名(オンデマンド)
「GIGAスクール構想支援事業」に係る教育情報化推進リーダー研修	令和6年6月	市町立学校の教育情報化推進リーダー(オンライン)
教育行政職員 ICT活用教育推進研修	令和6年10月	教育行政職員(県立学校、市町立学校) (オンライン)
情報モラル教育研修 (学校独自で実施)	令和6年4月～ 令和7年3月	全県立学校
情報セキュリティ内部監査	令和6年6月～12月	全県立学校(管理職・職員・教育情報化推進リーダー)
県立学校職員eラーニング研修	令和6年7月～9月	県立学校全教職員(オンデマンド)
J-LIS「リモートラーニングによるデジタル人材育成のための基礎研修」情報セキュリティコース	令和6年7月～12月	教育委員会事務局全職員(各教育事務所、教育センター含む)(オンデマンド)
J-LIS「リモートラーニングによるデジタル人材育成のための基礎研修」個人情報保護コース	令和6年7月～12月	教育委員会事務局全職員(各教育事務所、教育センター含む)(オンデマンド)
情報セキュリティセルフチェック	令和7年2月	教育委員会事務局全職員(各教育事務所、教育センター含む)

ベーシックプログラム
(5月~11月)

最先端デジタル技術

夏休みは
県外遠征も
実施!

@SAGA DI Lab **7拠点 + α**

**キックオフ
イベント**



地元学



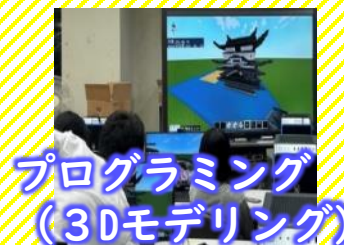
電気の礎
志田林三郎



佐賀の礎
鍋島直正



プログラミング
(AI画像分析)



プログラミング
(3Dモデリング)



これまでの
学びの
総まとめ



医療の礎
佐野常民



化学の礎
黒田ちか

将来、佐賀で
活躍する
DI人材を
目指し!

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月 佐賀県高校生DI選手権大会

SEIRENKATAベーシックプログラムの成果発表!



1月

2月

3月

アドバンスプログラム
(1月~)

2年次からは、自らの興味関心に合わせて
コース別履修を実施!

これがNANDなんだ回路 (真理値表) 演習



サーキットデザイン

NAND回路の仕組み

生成系AIで自己PRページ作成

ページに記載する項目

自己紹介
SEIRENKATAを通して
実現したいこと (自分の志)

将来の人物像

ページの仕様

1人1ページ (画面数無制限)

追加プランで実用可能な修正

締め切り: 2月末日まで



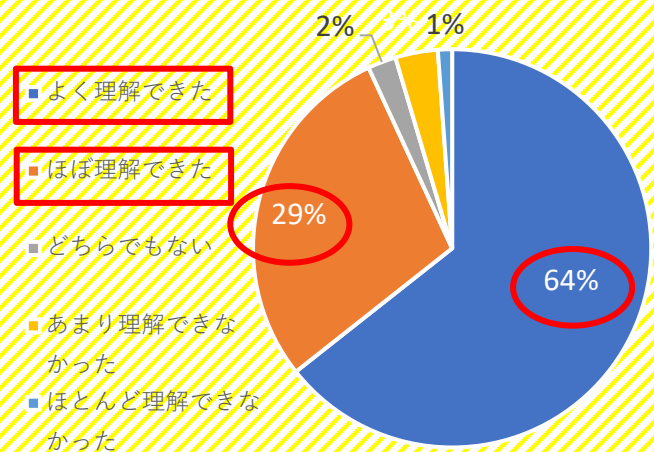
AI・プログラミング

AIの活用

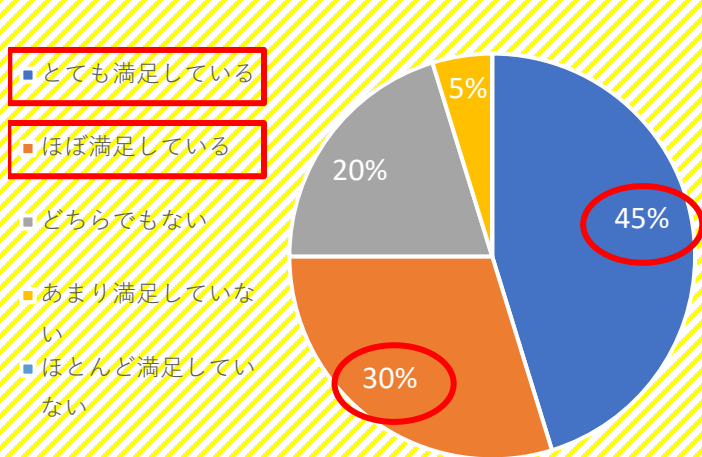
アンケート回答数：SEIRENKATA 1期生 87名

実施期間：2024年12月30日（月）～2025年2月14日（金）

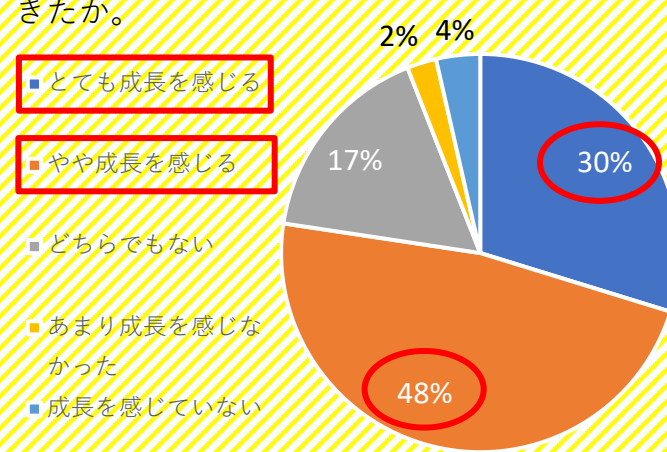
Q. 伴走コーチによる**講義**はどうだったか。



Q. ベーシックプログラムの**満足度**はどうだったか。



Q. ベーシックプログラムを通じて**自分の成長**を感じることができたか。



Q. **DI選手権**についての感想を自由に回答してください。

- ・他の拠点校の人たちの頑張りや技術を見て、刺激を貰った
- ・これまでの学びの発表の場として、達成感があり、よい経験になった
- ・佐賀の魅力をマイクラで伝えることができ楽しかった
- ・様々な学校の生徒と協力して技能を競うことができ楽しかった
- ・互いにレベルを高めることができた

Q. **成長**を感じたエピソードを具体的に教えてください。

- ・AI、プログラミングへの関心が高まりもっと学びたいと思った
- ・半導体やプログラミングについてDIを通して、理解できるようになった
- ・プログラミングの考え方や学び方を理解し、今後どう活用していくのか考えることができた
- ・地元学を学ぶことで、佐賀の魅力やその活かし方について考えるようになった
- ・佐賀県のことについて、以前より関心を持ってニュース等見るようになった

成果

- ・受講生の約7割が次年度も継続して参加を希望し、また、プログラム全体に対する満足度についても概ね肯定的な評価が得られており、受講生へ**学びの充実感や達成感**を提供できている
- ・受講生は、DI選手権大会において習得した高度な技術力を披露し、本プログラムが**最先端のデジタル技術習得**に寄与していることが実証された

課題

- ・講義内容ごとにみると**理解が追いついていない**受講生が一定数存在しており、フォローが必要
- ・特別講義への参加率が**3割程度**とやや低い
- ・他拠点との交流機会増加を望む声がある一定数あった

予告 2025

佐賀県高校生DI選手権大会 **ものすごフェスタ**内にて開催!

令和7年8月24日(日) SAGAアリーナ サブアリーナ

次期教育情報システムの構築に向けて

- 令和6年度の基本設計業務が完了
- 令和7年7月に契約締結後、詳細設計・開発を実施し、令和8年度後半の並行稼働を経て令和9年4月から次期教育情報システムが本稼働予定

◆全体スケジュール

教育情報システム	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31年度 2019	R2年度 2020	R3年度 2021	R4年度 2022	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026	R9年度 2027	R10年度 2028	R11年度 2029	R12年度 2030
旧システム	運用保守		延長	延長											
現行システム	事前審査 仕様審査会等		詳細設計 ・開発	開発 ・移行	運用保守			延長 作業	延長	延長	延長				
次期システム								事前調査等	基本設計	詳細設計・ 開発・移行	運用保守				
国の動き	学習指導要領改訂														
								校務支援システム実証研究							
												全国レベルでのシステム入れ替え KPI：次世代の校務システム導入 R11 100%			

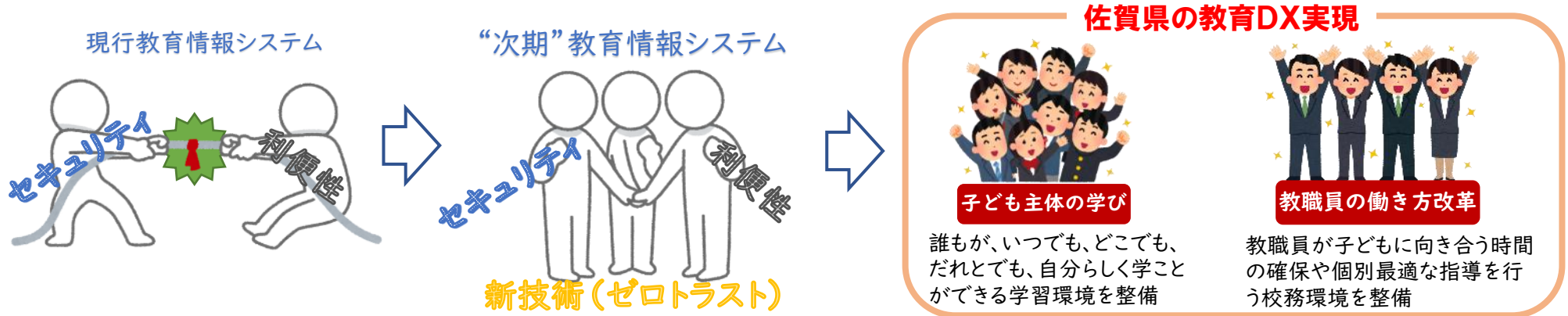
次期教育情報システム整備事業

○ 事業概要

- ・ 県では学校の業務をシステム化した“教育情報システム”を整備し、教職員が日常的に利用している
- ・ 現行システムは令和8年度末に利用期限となるため、後継となるシステムを整備する必要がある
- ※ 教育情報システムとは
 - ・ 校務（成績処理等）、事務（文書管理等）、保健（保健室来室管理等）、学籍（指導要録等）などの機能を有するシステム
 - ・ 「手書き」「手作業」が多い教員の業務効率化を図る観点で有効

○ 次期教育情報システムコンセプト

- ・ 次期システムでは佐賀県の教育DXを実現するシステムの構築を目指す
- ・ また、情報セキュリティと利便性を両立させる“新技術（ゼロトラスト）”を用いた次期システムを整備



次期システムコンセプト

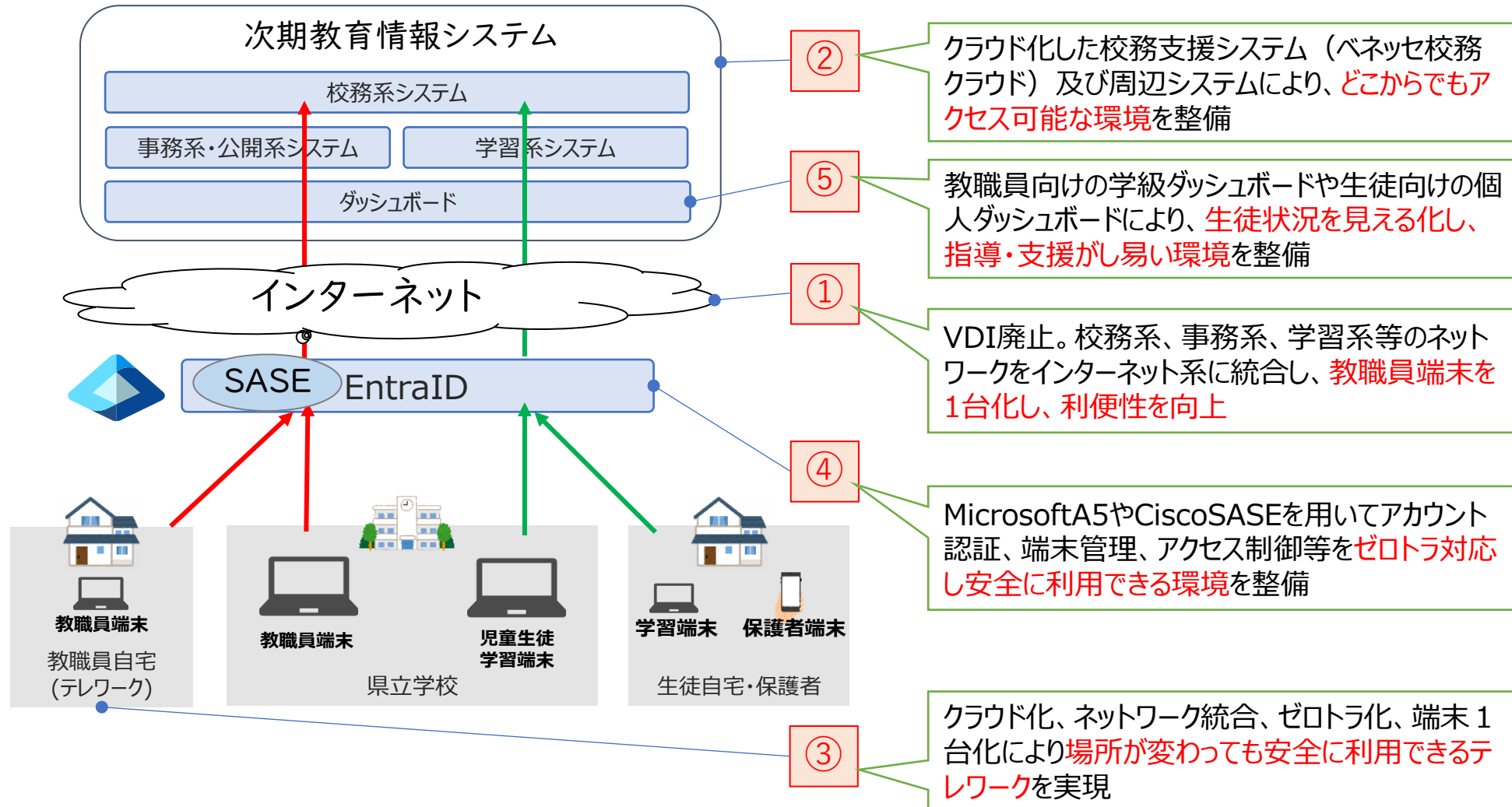
佐賀県の教育DXを実現するシステムを構築するため、以下のコンセプトを設定

- ① 校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合による教職員端末の1台化
- ② 校務支援システム及び周辺システムのクラウド化
- ③ 教職員のテレワーク
- ④ ゼロトラストによるセキュリティ対策
- ⑤ ダッシュボード機能による学習・指導の支援

※ゼロトラストセキュリティとは
端末やネットワーク、システムの全てのアクセスを常に監視し、異常を検知したら即座に処置（アラートや隔離）するセキュリティ機能

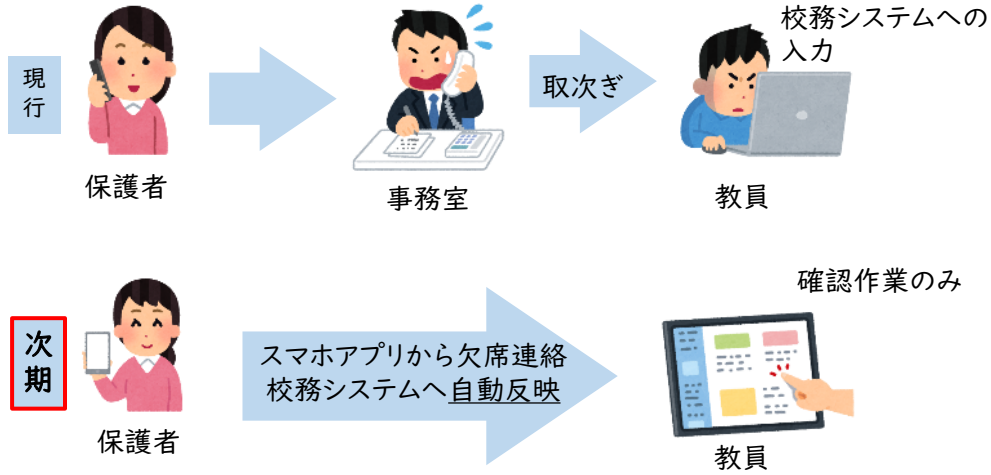
次期システムコンセプトの実現方法

○ 次期教育情報システムのコンセプトの実現イメージとしては以下の簡易図に示すとおりです。



次期教育情報システムによる校務効率化の見込み(例)

【欠席連絡】

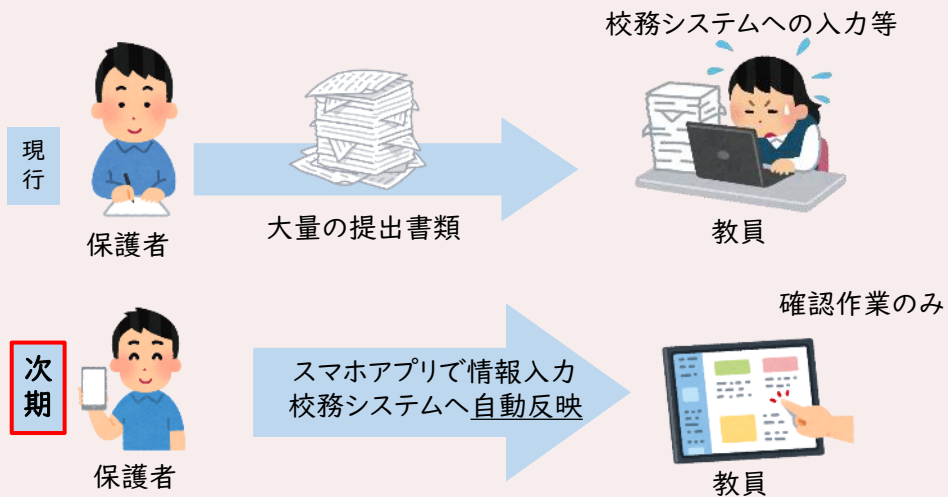


【ダッシュボード機能による情報の集計、視覚化】



校務効率化により、教員の子どもと向き合う時間や、自己研鑽、教材研究の時間の確保に繋がる環境の整備を目指す

【学校への提出書類のデータ化】



【学校からのお知らせ電子化】

